

特集：OECD 既存化学物質初期評価シリーズ

この特集シリーズは、主に、経済協力開発機構（OECD）が実施している高生産量（HPV）化学物質の人および環境に与える影響の初期リスク評価に関する評価プログラムの成果を継続的に紹介しています。このプログラムでは、OECD 加盟国および化学産業界が国際的な協力体制の下で HPV 化学物質についてスクリーニング情報データセット（SIDS）を整備し、定期的に行われる初期評価会議（SIAM）において審議しています。

この号では本シリーズの第 3 回目として次の 2 報を収載しました。

1. 高橋美加、他 “OECD 化学物質対策の動向（第 12 報） - 第 20 回、第 21 回 OECD 高生産量化学物質初期評価会議（2005 年パリ、ワシントン DC）”
2. 松本真理子、他 “OECD 高生産量化学物質点検プログラム：第 23 回初期評価会議概要”

HPV 化学物質の初期評価のための SIDS は、今や化学物質のスクリーニング評価情報として国際的な標準となっており、これを用いた初期リスク評価に習熟することが化学物質の適正管理に不可欠になってきています。

なお、OECD の初期リスク評価活動の全体的な概要については、第 2 巻第 1 号に江馬眞氏の詳細な報文が収載されています。併せて参照されたい。（文責：星川欣孝）